

栄華発外

令和7年度 朝礼（10/27） 校長の話

おはようございます。

合唱祭から約1週間たちましたが、今でもまだあのときの感動が残っています。全員が指揮者に集中する姿、すごく努力して練習したんだなあと思わせたピアノ伴奏、そして表情豊かな指揮者の格好良さ、すべてが今、八中生がもっている力の結晶として迫ってくるものでした。本当に、八中生のレベルがワンランク上がるのを目の当たりに出来た瞬間でした。

今日の四字熟語は「栄華発外（えいがはつがい）」です。「栄華」とは「美しい花や華やかな光」を意味します。内側に隠れた「美しい花」が外へ出る、つまり、内面にある優れた能力や才能が、まるで音楽のように外に現れて私たちに見えるようになることを言います。

合唱祭を振り返ると、やはりその歌の歌詞に込められた思いをきちんと理解して、心の底からそれを表現しようとしたクラスの合唱であればあるほど感動的だったような気がします。目の輝きや前屈みな姿勢、息を吸うときのちょっとした動きにも、なぜか歌っている人の思いがひしひしと感じられました。本当の美しさとは、外の見えるところだけ取り繕っても所詮浅い感動しか生まれません。内面の「花や光」があつてこそ本当の美しさが現れるのです。

今回の合唱祭はまさにこの「栄華発外」の競い合いでした。それだけものすごくレベルの高いことを成し遂げた皆さんだと言えます。本当に素晴らしいかったです。

さて、今回の合唱祭で私が注目したいもう一つのポイントがあります。それは本番までのプロセスにありました。

合唱祭が終わったあと、先生方が口々におっしゃったのは、「今日は生徒たちに何もかも委ねていました。」「教師が出る幕は少なく、子どもたちが自分でやり方を考え、自分たちでがんばっていました。」というものでした。このプロセス、実は2学期の始めに私が言った「Agency エージェンシー」に通じるものです。覚えていませんか？

Agency エージェンシーとは、人から言われたからではなく、自分でやるべき課題を設定して、それをどう解決するか見通しをもち、しっかりと課題解決のために努力し、結果に対しては自ら責任をもつという主体的な態度のことを言います。何が起こるか分からぬ予測不能な時代に生きる若者たちに、もっとも必要な力だと言われています。

また同時に、何をやるにしても Agency エージェンシーがあるとないとでは、やりがいが違うと言います。Agency エージェンシーがない環境は、人から言われることをするだけで、それが本当に自分である必要があるのかどうか分からぬ環境です。逆に Agency エージェンシーがあると、自分のやることに意味を感じ、その場所が自分の居場所であると強く感じ、毎日がわくわくとした充実感にあふれます。

どうですか、今回の合唱祭を振り返ると、そんな気分をもった人も多かったのではないでしょうか。そんな気持ちをもったなら、皆さんは知らず知らずのうちに、自然と、Agency エージェンシーをもった状態で合唱に挑んでいた、と言えるのです。私は、八中生のみんながこの Agency エージェンシーを獲得した、つまり一つ上のランクに到達した、素晴らしい生徒たちだと見ていました。

3年生は先週、合唱祭が終わったあと、緑が丘小学校と滝坂小学校の6年生を招いて、合唱祭で披露した曲を歌って聴かせました。合唱が始まる前、私はある生徒にこう尋ねました。「もう合唱祭が終わってエネルギーは残っていないんじゃないの？」するとその生徒は明るく笑ってこう答えました。「いいえ。

すごく楽しいです。また歌えるのは、すごく嬉しいです。」

どうでしょう、もし合唱を「やらされている」と感じていたなら、こんな言葉は出なかつたはずです。自らやりたいと思い、やりたいように努力し、そしてより良い結果を残した人の言葉そのものだと思います。3年生は、練習のとき、一回歌い終わるごとに、自然と話し合いが沸き起こっていました。それは一つの音、一文字の言葉にこだわった、ものすごくレベルの高い議論でした。さらに、桐朋大学の宮本先生に教わったときは、楽譜にない強弱の動きを初めて教わり、その通りやってみて、明らかにプロ並みに変わった自分たちの歌声を、自分たちで大絶賛し、拍手を交わし合った場面がありました。ますます合唱が好きになった瞬間であり、ますます練習のプロセスを自分たちで磨き上げようと思うきっかけでもありました。

皆さんは、Agency エージェンシーとはどんなものか身体を通じて実感したと思います。それを今度は学習をはじめとした学校生活、そして家庭での生活に広げていってください。八中生の全てが Agency エージェンシーをもった態度で、毎日わくわくしながら登校することを願っています。

先生の話は以上です。